

放置すると怖い生活習慣病！ 年に一度は必ず特定健康診査を受けましょう

市民の健康を守り医療費の適正化を進めるため、国民健康保険第2期特定健康診査等実施計画(平成25～29年度)を策定しました。

特定健康診査とは

40～74歳までを対象とし、心臓病や脳卒中など深刻な生活習慣病の前ぶれである「メタボリックシンドローム」に着目した健診です。

特定保健指導とは

特定健康診査の結果、生活習慣の改善が必要なかたに対して6カ月の間、直接アドバイスなどを行うものです。

医療費の3割強は生活習慣病

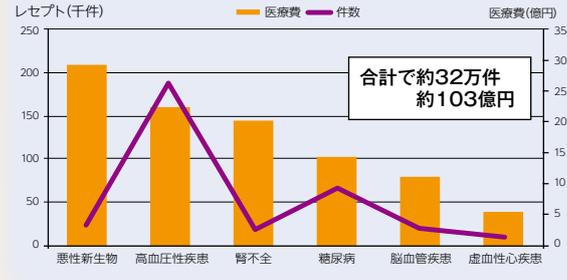
国民健康保険の医療費総額は年々増加の一途をたどっています(図1)。平成23年度の医科に占める総医療費に占める生活習慣



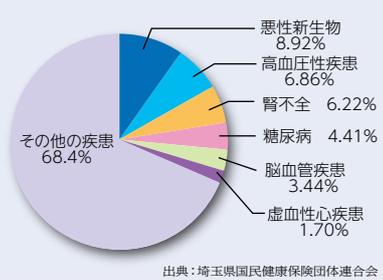
出典：埼玉県国民健康保険団体連合会

平成23年度川口市40～74歳の医科に関わる生活習慣関連上位6疾患

(図3)件数と医療費の状況



(図2)総医療費に占める割合



出典：埼玉県国民健康保険団体連合会

慣病関連疾患の割合が約3割強まで達しています(図2)。悪性新生物(がん)や腎不全は件数

第2期実施計画では

● 継続して受診することで健診結果が良くなることや医療費が抑制されることなどを周知します。継続受診や未受診者の受診を促し、将来の医療費の伸びを抑制していきます。

● 特に受診率の低い40歳代・50歳代に対し、健診の重要性や若いうちからの生活習慣改善の必要性について周知し、受診率向上を図ります。

● 特定保健指導を受け、生活習慣を改善したかたは、健診結果にその効果が表れていることや、医療費の伸びを抑制する効果が期待できることを周知し、実施率向上を図ります。

● 特定保健指導の対象外でも、リスクの高いかたに対して、病気の発症予防・重症化予防を図ります。

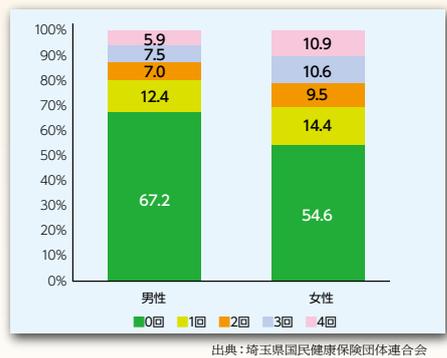
● 腎臓病による人工透析患者を減らすため、平成25年度から腎機能低下予防を強化します。事業主健診のデータ受領や市が実施するがん検診との同時実施など連携の強化を図ります。

● 第2期特定健康診査等実施計画の詳細は、ホームページをご覧ください。

第1期(平成20～24年度)の実施状況

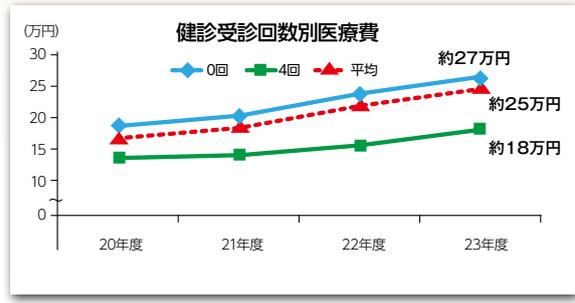
平成23年度の受診率は24.7%で、25711人のかたが受診しましたが、65歳以上のかたの受診率31.2%に対し、40歳代のかたの受診率は、わずか13.8%でした。また、4年間健診を受けなかった

(図4)川口市特定健康診査の受診回数から見た構成率(平成20～23年度)



出典：埼玉県国民健康保険団体連合会

(図5)川口市受診回数別1人当たり医療費



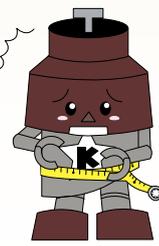
出典：埼玉県国民健康保険団体連合会

たかたの割合が、男性67.2%、女性54.6%で、毎年健診を受けるかたが非常に少ない状況です(図4)。しかし、継続して健診を受けることで健診結果が改善されることや、1人当たりの医療費も低くなるということが明らかになりました(図5)。

年に一度は必ず健診を！

生活習慣病は、自覚症状がないままに進行し、放置すれば、心疾患・脳卒中・糖尿病の合併症(腎不全・失明・えそ)など、重大な病気を引き起こす可能性があります。

健康と思っているかたでも、年に一度は、特定健康診査または人間ドック検診を受け、疾病の早期発見早期治療を。



問い合わせ先

国民健康保険課
048125917916
048125214471